

TSEC : tissue specific estrogen complex

宮本 雄一郎 / 平池 修

Summary

加齢により閉経後女性はエストロゲンが欠乏するが、エストロゲン欠乏はホットフラッシュに代表される血管運動神経障害のみならず、骨粗鬆症、脂質異常症の発生などにも関連し、中高年女性のQOLを著しく損ねる原因の1つとなり得る。

ホルモン補充療法は、卵巣欠落症状を改善する一方で、血管内皮に対する悪影響や、悪性腫瘍発生リスクを増加させることが問題となってきた経緯から、選択的エストロゲン受容体修飾薬(selective estrogen receptor modulator ; SERM)をプロゲステロン製剤の代用として用いる治療方法 TSEC (tissue specific estrogen complex) が、今後新たなホルモン補充療法の選択肢として期待されている。

Key words

エストロゲン
ホルモン補充療法
選択的エストロゲン受容体修飾薬
TSEC

はじめに

エストロゲンの作用は全身かつ多岐に及んでおり、さまざまな器官で多彩な生体機能を示し、生命活動を維持している重要な性ステロイドホルモンである。エストロゲンは、子宮肥厚、卵胞発育、二次性徴発現、乳腺発育促進、骨端閉鎖、性欲亢進、発情行動などの生体作用を発揮することが知られているが、骨代謝、脂質代謝、認知機能の維持にも効果があるとされる。

女性のエストロゲン産生は閉経を機に著しく減少するが、この減少は加齢による原始卵胞の枯渇の影響である。閉経後のエストロゲンの欠乏は、骨粗鬆症や脂質異常症、脳血管障害など、中高年女性のQOLを著しく損ねる原因の1つとなる。また、腫瘍分野においては、診断および治療技術の進歩から、早期発見、早期治療介入による婦人科癌治療予後の改善から、術後患者の cancer survivor としての余生は長くなっており、治療に伴う卵巣欠落症状も忘れてはならない。

エストロゲン補充を目的としたホルモン補充療法は、血管運動神経障害などの卵巣欠落症状を明らかに改善する一方で、乳癌や子宮体癌などホルモン依存性腫瘍のリスクを増加させることが問題となってきた。また子宮を有する女性に対するホルモン補充療法で必須であるプロゲステロン製剤は、脂質プロファイル、乳腺への影響などの副作用があることが問題となっている。安全なホルモン補充療法を行うために、エストロゲンの作用機序から考案された、選択的エストロゲン受容体修

Yuichiro Miyamoto

東京大学医学部産科婦人科学教室

Osamu Hiraike

東京大学医学部産科婦人科学教室准教授